

タイトル	献辞
著者	奥田, 仁
引用	季刊北海学園大学経済論集, 58(1)
発行日	2011-03-31

## 献 辞

経済学会長 奥 田 仁  
経済学部長

本学経済学部および経済学会では本年3月に退職される美馬孝人教授、河西勝教授、伊藤淑子教授のご功績を記念し、これまで賜ったご指導とご厚誼への感謝をこめて『経済論集』第58巻第4号を三人の先生に献呈いたします。

美馬孝人先生は1969年に着任され42年にわたって、また河西勝先生は1975年に着任され36年にわたって教育研究にたずさわり、本学の発展に貢献されました。両先生が着任されたのは本学が4年制大学として発足後、美馬先生が17年目、河西先生が23年目にあたりますが、まさに本学が草創期をへて発展期に入ろうとする時期であり、両先生は気鋭の若手教員として、研究・教育・大学運営の全般にわたって北海学園大学の新たな発展を先導されました。それは「開拓者精神」という建学の精神を基礎に、「研究に基づく教育」、「大学の自由と自治」といった国際的に通用する「大学らしい大学」の伝統を北海学園大学にしっかりと定着させた時代であったといえます。このような学風の確立が多くの学生をひきつけるとともに道内外から優れた研究者を招きよせ、現在の本学経済学部を培うことにつながったといえるでしょう。

美馬先生は、本学において社会政策を担当されその研究業績は膨大なものがありますが、なかでもイギリス社会政策の歴史と先端的研究動向を紹介されるとともに、国鉄問題をはじめとした日本や北海道における労働政策上の焦眉の課題についても多くの論文を発表されました。先生はこのような研究活動を通じ、本学において社会政策、労働経済論、社会保障論の三つの柱を有機的に結びつけた研究教育体制をうちたて、本学経済学部の大きな特色とされました。

河西先生は経済学原理を担当され、長年にわたり経済学の原理論の研究と教育にたずさわられました。この間やはりイギリスに留学されて、国際的な視野からマルクス経済学とくに宇野理論の批判的な再構築をめざし、その一環として企業の本質を追求されて、学会のみならずわれわれ経済学部のスタッフに多くの学問的示唆を与えてくださいました。

また、伊藤淑子先生は1999年に本学経済学部教授として着任され12年間にわたって本学の教育研究に力を尽くされました。この間、先生は社会保障論を担当され、特に2003年に発足した経済学部地域経済学科の基礎を作られました。先生はソーシャルワーカーとして働いた経験を生かしつつ、イギリスやアメリカで行った調査研究活動をふまえて、きわめて高い次元で理論と実証を結合させた研究を行うとともに、それを教

育に反映して本学の学生に多大な影響を与えられました。

このように、三人の先生方は北海学園大学在職中に大きな足跡を残され、その遺産を私たちが引き継ぐこととなります。ここにこれまでの先生方のご厚情に深く感謝申し上げますとともに、今後の先生方のご活躍がさらに実り多いものとなることをご期待申し上げます。また、本学はいま新たな時代に向けて新たな飛躍を期する時にあるといえますが、先生方には今後とも北海学園大学を見守り、私たち後輩に対してご指導とご助力を賜りますよう心からお願い申し上げます。

なお本記念号の刊行にあたっては、美馬先生の先輩かつ学友である荒又重雄先生、および美馬先生に指導をうけた杉林ちひろさんのお二人に特別寄稿を頂戴しました。ここに記して厚く御礼申し上げます。